

# 横浜はじめ病院の 感染防止対策等について

特定医療法人財団慈啓会・横浜市医療局

# 横浜はじめ病院

運営主体 特定医療法人財団慈啓会 新納憲司理事長

項目	内容
医療機能	新型コロナウイルス感染症の自宅療養者のうち、BMI30以上などのハイリスクのある方に対して、入院による薬剤投与などの早期治療を行い、重症化を予防します。
病床の区分	一般病床
病床数	85床 / 当初は60床を最大確保病床とします。
医療体制	24時間、医師、看護師等が常駐します。 (横浜市立大学等からの派遣)
患者の搬送方法	原則、救急車による搬送です。 自家用車や独歩での来院はありません。

# 医学的な視点からの感染症防止対策

- 新型コロナウイルスは主に「三密」環境で感染が広がります。  
感染者に直接接したり、閉鎖空間で接しない限り  
感染リスクはありません。
- 病室の空気はHEPAフィルターという、高性能フィルターを通して排気します。
  - ・ HEPAフィルターは0.3 $\mu\text{m}$ の粒子を通しません。  
(1 $\mu\text{m}$ =0.001mm)
  - ・ 新型コロナウイルスで問題となるエアロゾルと呼ばれる粒子は、**5 $\mu\text{m}$ 程度**です。
- 感染防止対策は、**横浜市立大学附属病院の指導**を受けています。 <sup>3</sup>

# 患者入退院時の搬送と正面玄関付近の運用

- 入退院時**、消防局の救急車、民間救急車（赤色灯なし）  
または、一般車と区別がつかない専用車で、**患者を搬送**します。
- 横浜はじめ病院の**受入患者が、**  
**徒歩で来院、退院することはありません。**
- 車両は**病院敷地に乗り入れ、正面玄関に横付け**します。  
患者は、正面玄関側の側面ドアから乗り降りし、  
**正面玄関前の道路を歩くことはありません。**



患者を搬送する車は病院敷地に乗り入れ、玄関側の側面扉を開閉させて、患者を病院内に案内します。その際、パーテーション等により患者の姿が見えないよう配慮します。患者は正面玄関前の道路を歩くことはありません。また、守衛が外に出て周囲を監視します。

# 病院内の構造

- 患者は正面玄関から、職員は通用口から出入りします。
- 患者が入院治療を受ける区画と、医療従事者がカルテ記載等を行う区画は、パーテーション、アクリル板等で分離します。
- 病室は、陰圧装置により、室外に空気が流れないように、空調管理を行います。



患者の受付はアクリル板越しに行い、事務職員は直接接しません。  
また患者の移動も患者専用エレベーターを用意し、職員のエリアとは分けています。

# 病院からの排気

- 患者が入院する病室は、**医療用の陰圧装置により、室内の空気がそのまま室外に流れないように設計を行っており、HEPAフィルターという高性能フィルターを通し排気します（HEPAフィルターはウイルスを通しません。）**。  
使用する陰圧装置は、気圧計により正常に稼働していることを常に確認できます。
- 従来使用していた排気口は**封鎖**し、使用しません。





病室には、医療用の陰圧装置を設置しています。  
室内の空気がそのまま室外に流れないように設計を行っており、  
HEPAフィルターというウイルスを通さない高性能フィルターを通し排気します。



建物の外周には排気口がありますが、患者エリアの空気はここには排出されません。  
室内の換気扇は使用せず封鎖します。

# 患者の外出防止

- **正面玄関を施錠し、24時間守衛が管理**します。
- 2階の屋外避難梯子（ベランダに設置）は格納式で**非常時のみ使用**します。  
ナースステーション前の**ベランダに出る扉には破壊錠を設置し、患者は破壊錠を壊さなければベランダに出られません。**
- 正面玄関、通用口などに**監視カメラを設置**しました。  
外出が発生した場合は、  
警備会社及び神奈川警察署に通報することで対応します。

# 外来患者を受けないことの周知

- 横浜はじめ病院、横浜市のホームページ、病院入口への掲示により、**一般外来診療を行わないことを周知**します。

# 駐輪場蛇腹ゲート等の管理

- これまで、病院裏手の駐輪場への蛇腹ゲートが開いていましたが、現在すでに**封鎖しており、今後は厳格に管理**します（使用しません）。
- 敷地の草木については、伐採し、**近隣の方に御迷惑をかけることのないよう十分に注意します。